

三種の評価者(学生・同僚・自己)による授業評価アンケートの実施理念

薬学部F D委員会

【経緯と目的】

岡山大学薬学部では、「学生による授業評価アンケート」(以下、学生評価アンケートと称す)は、教員の授業改善および学部教育改善を目的として、**実習を含む全ての授業で実施**されている。一方、学生評価アンケートには、「受講者数の少ない科目が高得点になる傾向にある」、「楽勝科目が高得点になる傾向にある」、「オムニバス授業科目では、教員個々の授業改善につながりにくい」、「ほとんど出席していない学生のアンケート結果も含まれている」等の学生からの評価だけでは、必然的な解決不能の問題を抱えるため、**授業評価のための尺度としては正確さに欠ける**とする声は多い。さらには、現行の「学生評価アンケート」が真に授業改善に繋がっているのかについての全学レベルでの検証は全く進んでいない。本学部においても、他学部と同様、全学的な動向の渦中で、学生評価アンケートを実施しているものの、数値結果が暴走ぎみに一人歩きするという弊害を残しているだけで、アンケート結果を「**授業改善や教育改善に利用する**」という本来の目的およびその意識が薄れつつあるのが現状である。

今回のF D委員会からの第一の提案は、「学生評価アンケート」結果が検証可能な、新しい「**学生評価アンケート**」を実施するというものである。これは、個々の学生に、前の学期に受講した専門科目の中で、最も満足した科目および最も改善を要すると判断した科目それぞれを3科目ごと選択させること、および、当該科目の成績開示後に実施することに特徴を有し、現行の学生評価から得られた結果を、相対的尺度から検証でき、学生が判定した科目の特徴について成績との相関を含めて解析可能となる。

岡山大学中期目標・中期計画の平成18年度年次計画では、授業評価の新規基準として、「同僚評価」を取り入れることが謳われている。本計画は、教育改善を目指した授業評価方法として、学生だけを対象としたアンケート評価だけに留まらず、教員(同僚)を対象としたアンケート評価を加え、両者の結果から判断するという点で高く評価できるものである。平成15年度に本学部における全専門科目は、公開授業とすることが教授会、教員会議で承認されている。第二の提案は、これを受け、「**同僚評価アンケート**」を実施するというものである。

第三の提案は、上述の学生・同僚評価に、「**自己評価のための授業調査アンケート**」を加えることによって、アンケートを学生・同僚・自己の三者から実施し、これまで学生評価の側面からしか判断できなかった授業を、総合的・多面的に判断できるように改訂し、教員の授業改善および学部全体の教育改善への喚起を促すことを目指すものである。

三種の評価者による
授業評価アンケート

【学生評価アンケート実施要領】

1. 実施は、学期はじめの授業で、各学年の当該担当者にF D委員会から依頼して行う。
2. 集計作業は、F D委員会で行い、集計・解析結果は、教員全員に報告する。

【同僚評価アンケート実施要領】

1. 同僚グループは、3人以上の薬学部専門授業科目を担当している教授・准教授・講師・助教で組織する(グループ組織についてはF D委員会で決定し、通知する)。
2. 評価者は、同グループの教員(本人を除く全員)が担当する授業に最低1回は出席し、別紙のアンケート項目に記載し、教務係に提出する。ただし、1科目に複数の教員が担当する授業(オムニバス授業)においては、各教員ごとの出席・評価が望ましい。
3. 集計作業は、F D委員会で行い、集計結果は、対象授業担当者に報告する。

【自己評価のための授業調査アンケート実施要領】

1. 授業担当者は、授業の担当分が終了した後、別紙のアンケート項目に記載し、教務係に提出する。
2. 集計作業は、F D委員会で行い、集計結果は、対象授業担当者に報告する。